

ぼくのとなりの Wild grass next to me 野草

上野邦雄

KUNIO UENO

青山ライフ出版

はじめに

—どこにでもいる身近な野草—

山や高原に行くとめずらしい野草が多くの花を咲かせています。日常では見かけない美しい景色がそこにはあります。さわやかな風も気持ちを落ち着かせてくれます。一方普段見かけている住宅地などの野草には全くと言っていいほど関心が持たれません。どちらかと言うと雑草として邪魔者扱いを受けていることが多いのが現状です。しかしそんな身近にある野草にもいろいろ素敵なところが見られます。

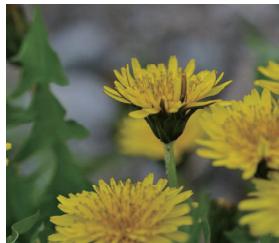
何気なく普通にある草に興味を持っていただけるようにと植物に全くの素人の私が本を出すことにしました。植物も生き物という想いから極力標本にすることを避け、見た目や育つ場所から同定しています。そのため同定が難しい植物もかなりあり、わかる範囲での紹介となってしまいました。また、私の住まいが千葉県の東葛飾（松戸・流山・柏・野田）のためそこでの野草が主になっています。ただ何か所かはまだ自然が多くありいくらかは山で見られる野草も載せました。また庭などに植えられている植物にも目を向けてみました。

街中にある普通の野草が高原の植物と少しも変わらずに懸命に生きていることをお知らせできたらと思い、この小冊子をまとめた次第です。いろいろと違うところもあるかとは思いますが、ご容赦いただければ幸いです。今をともに生きている仲間として、ぼくのとなりの野草を楽しんでいただけることを願いつつ・・・。



となりの野草のつぶやき

ニセカントウタンポポといわれて
いるが、正式にはまだ名前がない。
「吾輩はたんぽぽである。名は
まだない。」少し悲しい。



ニセカントウタンポポの果実



ブタナ・・・あまり気に入っていない
名である。トンでもないと思って
いる。せめてコブタグサぐらいに改
名を・・・。

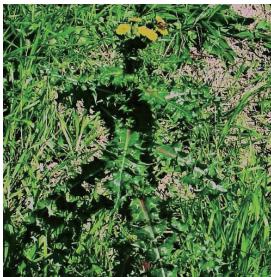
愛称は「子ブタちゃん」がいい。



コウゾリナ・・・茎のとげで子を
いじめたと広まっているが真実で
はない。子どもが私を抜こうとし
て、茎のとげに触れただけ。
世の中には不条理な事が多い。
これでいいのか。



ぼくはピオランテ？・・・怪獣は特撮映画の中だけじゃない。ぼくはピオランテ。ゴジラに出ていたのは僕の祖父。少し変わったオニノゲシと心ない人は言うけれど・・・。鋭いとげもしっかり持っている。



ヘクソカズラ・・・強い臭いのため昔から変な名前がついている。花はそれほど悪くない。名前を変えれば、嫌がる人の見方も変わる。早く差別のない世界が来るといいと待ち続けている。



ヤセウツボ・・・ウツボと名前がついているが、噛みついたことは一度もない。どちらかというと他の草にたよって生活している。年金受給者の一人。近頃その年金が減り、困っている。



フルナスピ・・・悪と名がついているが悪人ではない。とげの数もアメリカオニノゲシほど多くない。果実も小さなスイカのようでかわいい。とげは抜かれないためのもの。そっとしておいて欲しい。



ヨモギ

キク科

(出会うところ) 空き地、道端、校庭の隅、草地、土手。

(主な特徴)

- ・多年草。草の高さは50～90cmになる。
- ・茎の色は淡い緑色から紫がかった緑色になる。
- ・葉の裏側に白い綿のような毛を多くつけ、葉の裏側は白くなる。
- ・葉は深く切れ込む。
- ・花は小さく、枝ごとに穂のようになり多数つく。

(花期) 8～10月、花の色は赤茶色。



(学校での利用)

- ・小学校の身近な野草調べで、昔から利用されている草「草餅、草団子、お灸の材料」として紹介できる。

(豆知識)

- ・別名として、モチグサ、モグサ、ヨゴミなど。「牧野新日本植物図鑑」では、カズザキヨモギで出ている。
- ・4～5月頃の若い葉をつみ、十分にあく抜きして、いため物として食べることができる。天ぷらや味噌汁の具としても使える。味としては、まあまあといったところ。草餅の原料にもなっている。また、葉を乾燥させ、綿毛を集めたものが灸（きゅう）の材料となっている。
- ・民間薬として胃腸や喘息の薬としても利用されてきた。
- ・春の七草には入っていないが、昔からかなり利用されている。秋に咲く花は目立つこともなく日本らしい野草。名の由来も不明のままでいい。

ヨモギの葉の裏白い毛が特徴



ブタクサの葉



一寸休憩 「ブタクサですか。」と、よく聞かれます。春の頃は、ブタクサの葉の様子と似ているところもあります。慣れると葉の違いからすぐわかるのですが・・・。ヨモギは目立たない、それでいいのだ。